

旅 時空の

undiscovered JAPAN

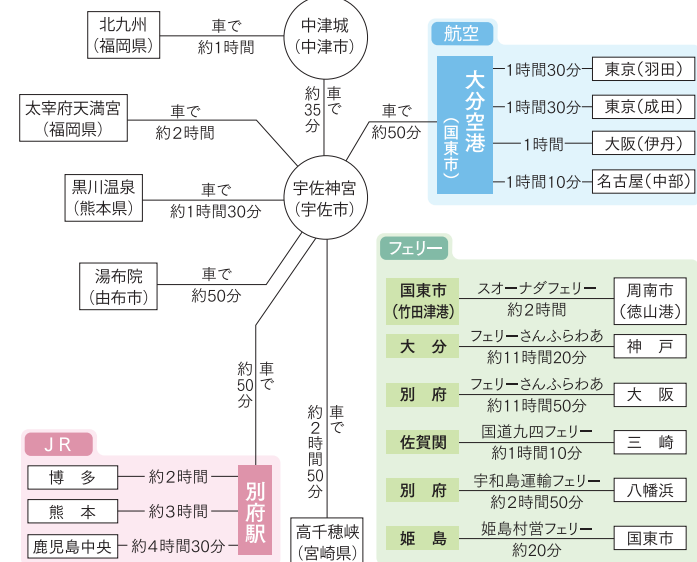
千年ロマン



観光案内所一覧

中津耶馬溪観光協会	中津市大字島田219-2	0979-64-6565
深耶馬溪観光案内所	中津市耶馬溪町大字深耶馬3102-2	0979-55-2880
宇佐市観光協会	宇佐市南宇佐2179-3	0978-37-0202
宇佐市観光協会 安心院部会	宇佐市安心院町下毛2074-1	0978-34-4839
宇佐市観光協会 院内部会	宇佐市院内町副1381-2	0978-42-6040
昭和ロマン蔵内観光案内所	豊後高田市新町989-1	0978-23-1860
国東観光案内所	国東市国東町小原2662-1	0978-72-5168
杵築観光案内所	杵築市大字杵築665-172	0978-63-0100
杵築駅観光案内所	杵築市大字八坂野添1987	0978-97-2360
山香観光案内所	杵築市山香町倉成2961	0977-75-0908
日出町観光協会	速見郡日出町2612-1	0977-72-4255
別府駅総合案内所	別府市駅前町12-13	0977-24-2838

主要観光地からの交通アクセス



豊の国千年ロマン観光圏

(一社)豊の国千年ロマン観光圏

〒874-0926 大分県別府市京町11-8 TEL.0977-85-8511 FAX.0977-85-8516

<http://www.millennium-roman.jp>

[m_toyonokuni](https://www.instagram.com/m_toyonokuni)



豊の国千年ロマン観光圏とは

大分県8市町村に息づく、神代・古代・中世・近世・近代の、千年を超える時空の旅が楽しめるエリア。
千年の記憶をひもときながら、知られざる日本の歴史・文化との出会いがここにあります。

undiscovered
JAPAN

千年の記憶のかけらを
ひとつひとつ、
手に取るように。

初めてなのに、懐かしい
訪れるほどに、奥深い。
神代から近代、そして今—
時の息遣いを感じながら
めぐる千年ロマンは
忘れかけていた何かを思い出す。
ほんのり心に優しさがともる

満ちる旅

千年ロマンの神代の舞台、宇佐神宮にある宝物館。ここには国宝をはじめ、国東半島の歴史や文化にかかわる貴重な展示物が並ぶ。

神 undiscovered JAPAN 代

神代の舞台は
神秘の島
姫島から始まる。



観音崎
千人堂・姫島



七不思議の一つ「観音崎」は、黒曜石の産地。九州だけでなく、中国、四国でも姫島産の黒曜石が出土している。莫大な規模の黒曜石は、国の天然記念物に指定。島は四つの火山島の集合体であることから、火山が生み出した神秘の島をテーマに、日本ジオパークに認定されている。

大分県の北部にある空の玄関口、大分空港を出発して、美しい海を眺めながら国東半島の北に車を走らせる。このエリアは千年以上もの歴史の足跡が数多く残る、時をめぐる旅が楽しめる場所。どんな時間が流れていくのだろうかと心を躍らせながら進むと、右側に島が見えてきた。この島は「姫島」と言い、多くの神話が眠る神代の島である。

青い瀬戸内海に抱かれた姫島は、古事記によるとイザナギとイザナミの二人の神から生まれたと伝えられている。

「姫島の名前の由来となった」比売語曾社こせしやには、意富加羅国おほらのくに（今の韓国南部）からたどり着いたお姫様が比売語曾の神になったと日本書紀に記されている。この神社は恋愛成就や縁結びの神様で、女性の味方してくれる。境内の奥には大きな岩の間にひっそりと祠ほこらが守られるよ

太陽に、月に、そして神々に。

祈りとは、純真無垢な想い。

うにある。島の人たちはここでそつと手を合わせる。

比売語曾のお姫様にまつわる言い伝えはまだほかにも。お姫様が手拍子を打って湧いたという「拍子水」や、お姫様が柳の楊枝を逆さにさすと柳の芽がでたという「逆柳」などの「姫島七不思議伝説」を抜きにして姫島は語れないというから、お姫様の物語をたどりながら、じっくりめぐってみたいと思った。

そんな謎めいた姫島を通り過ぎ、国東半島の海沿いをまわって、宇佐神宮へと向かう。

神代のルーツ 宇佐神宮へ

国道10号線を進むと、開けた街並みに広大な社が見えてきた。神代の時代、宇佐の地に舞い降りた八幡神を祀ったのが、この宇佐神宮である。

神仏習合八幡信仰 宇佐神宮

725年に創建した、全国に約4万社余りある八幡社の総本宮。八幡大神、比売大神、神功皇后を御祭神とする。八幡神は国難のたびに神威を発揮し、国家と朝廷を守り、伊勢神宮に並ぶ国家神として重要な地位に置かれた。





八幡鳥居

神

undiscovered
JAPAN
代

聖地を歩く。

宇佐神宮奥宮
御許山



宇佐神宮の神体山で、八幡神が初めて降臨したと言われるとても重要な場所。宇佐神宮から2時間半かけてトレッキングをしながら、奥宮へとお参りに行く人も多い。



奥宮鳥居

神橋を渡ると、色鮮やかな朱色の大鳥居が迎える。その先に見える参道はまっすぐと奥の杜の入り口へと導き、ここから神域へと入っていく。手水舎までの長い参道に沿って、当時は大規模な寺があったが、廃仏毀釈により、その姿は消えてしまった。今は宝物館や能舞台、たくさんの社殿が並ぶ。宝物館前にある初沢の池は、京都の広沢の池と並び、日本の三沢の池の一つになっていて、6〜7月には見事な蓮の花が咲き誇り、極楽浄土のような世界が広がる。

手水舎で身を清め進むと、その一帯を天然記念物のイチイガシが生い茂る。太陽を遮り、緑一色に包まれる異世界。パワースポットなんて言葉に収まりきらない、そんな力を強く感じる。

広い杜を抜け、いよいよ上宮へ。国宝である本殿、一・二・三之御殿を囲む、宇佐神宮を象徴する建造物の一つ、南中楼門が見える。宇佐神宮の本殿は、八幡造という建築様式で、檜の皮を重ねて造られた檜皮葺である屋根が特徴的。

その神事に携わるためには「六郷満山」での修行が必要だったという。

修行僧たちが勇んで行った六郷満山の地、国東半島へ。神と仏の力を授かりに、神代から古代へとタイムトリップする。



弥勒寺跡

薦神社
宇佐神宮の祖宮



三角池



中津市に鎮座する八幡社で、宇佐神宮の祖宮。版築工法の堤防に囲まれた三角池(御澄池)を内宮、神殿を下宮とする珍しい神社。勅使を迎えるための具橋があり、宇佐神宮とのつながりが深い場所で、三角池に自生するマコモでつくった薦枕を宇佐神宮の本殿に奉納している。

宇佐神宮の参拝方法は、全国でも珍しく「三拝四拍手一拜」。三つの御殿にしっかりと手を合わせる。最後に、三之御殿の前にある御神木の太楠に両手をそっと当てて、願い事をもう一押ししよう。上宮から下宮へ降り、奥の方に緑が生い茂る場所が見えてきた。そこには「弥勒寺跡」と書かれた案内図。奈良時代に神仏習合の起源であるお寺があった場所である。この弥勒寺には高僧が集まり、流行の病などの大きな災いから救うための神事「放生会」を担っていた。



神と仏にささげらる

新しい祈りの道

宇佐神宮を出発し、国東半島の中心に位置する両子寺へ。その道中はのどかな里山風景が広がる。しかし、国東半島の中央を目指すにつれ、荒々しい岩山が連なっていた。

国東半島最高峰の両子山から延びる谷筋に沿って、6つの郷で開かれた寺院群を「六郷満山」と呼ぶ。約1300年前に宇佐八幡神の化身とされる、仁聞菩薩によって開かれたと言われている。

その六郷満山の総持院、天台宗の別格本山であった両子寺にたどり着く。見上げると山々に守られるように境内が見える。立派な護摩堂は、その外見から厳しい修行の場だったことが想像できる。木々に囲まれた境内は、緑の頃はなんとも清々しく、秋には錦をまとったような美しい紅葉に包まれる。

境内を歩くと、縦に長く境内がつくられていることに気付く。僧侶たちはきつと山の高低差を利用し

た修行をしていたことを体感しながら、息を切らして奥の院へと続く急な石段を一步ずつ踏みしめる。

生への慰めと感謝を込めて 放生会



放生会は、宇佐神宮最古の祭礼と言われる。その起源は720年、南九州の隼人の乱のたたりを鎮める儀式で、毎年10月、八幡大神(はちまんおおかみ)が神輿に乗り、稲穂が実るあぜ道を宇佐神宮から和間海岸まで往復して行われる。祭礼には古式に習い六郷満山の僧侶が参列する。

両子寺奥の院 岩屋



やっとの思いで上りきると、崖を這うように立つ奥の院が見えた。手を合わせながら、呼吸を整える。奥の院には双子の神様が祀られていて、子授けのご利益で知られる。深呼吸をして、奥の院の裏側にある岩屋へ入る。空気の流れが止まったような静けさを留める。波を打つような凹凸のある岩肌は、仏像のシルエットにも見えた。この岩屋で僧侶たちは長い月日を過ごし、自然と、神仏に力を授けてもらっていたという。

悟りの道を歩く 峯入行

国東半島には、六郷満山を開いた仁聞菩薩によって作られた28の岩屋があり、すべての岩屋で修行する「峯入行」がある。踏破した僧

侶だけが宇佐神宮の弥勒寺に僧侶として務められ、放生会に携わることができた。

峯入は6日間かけて約150キロにおよぶ険しい山や谷を、命をかけて歩く修行。10年に一度、今でも六郷満山の僧侶たちが行っている。最近では、この修験道をベースとしたトレッキング「国東半島峯道ロングトレイル」で、当時の修行の道を歩くことができる。



自然に神仏を宿す 石造文化



国内最古にして最大級の磨崖仏 熊野磨崖仏



現存する九州最古の木造建築物
国宝 富貴寺大堂



国東塔



国宝級の
仏像が残る
真木大堂
木造大威徳明王像
(国指定重要文化財)



三人寄れば文殊の智恵発祥の地 文殊仙寺

古 undiscovered JAPAN 代

お参りを済ませ、帰り際に「仁王さんには会いましたか？山門のほうへぜひ立ち寄ってみてください」と声をかけられた。せっかくなので昔ながらの参道を通じて、仁王像のある場所へ向かった。小さな無明橋の向こうには、凛々しい表情に筋骨隆々とした石の仁王像がにらみを利かせて佇んでいる。その表情と造形美に見とれてしまい、しばらく足が動かなかった。石に込められた祈りの形は、国

東半島独特の貴重な文化遺産。小さな野仏から、崖に彫り込まれた磨崖仏、国東独自の国東塔、五輪塔など、種類はさまざまある。石造仁王像は、全国の約8割が国東半島に存在している。阿子寺のたくましい姿や、ユーモアある表情のものなど、数ある寺院を見比べて歩くのもおもしろい。一心不乱に彫ることで、かつての人は純真無垢な祈りを込め、その石造物の繊細さ、迫力から、僧たち

の信仰の深さを感じた。国東半島をめぐる、山深い場所にたくさんのお寺があることに驚く。このような場所にとっても立派なお寺を建てたのか、こんなに多くの石造物が作られたのか、見当もつかないほど、神仏習合の思想がここに残る。寺で学び、岩屋で自分自身を磨く僧侶たちは、仏教により得た知識と技術を駆使し、弥勒寺を目指したのだろう。天地自然を敬い、ただひたすらに祈りをささげて。

平安時代の 姿を留める先人の知恵

中 undiscovered JAPAN 世

宇佐神宮が大切に 千年前と変わらない荘園 田染荘

米の豊作が何よりも尊ばれた時代。藤原氏と手を結び、日本の政治を動かす権力と財力を持った宇佐神宮は、九州の総面積の3分の1を荘園に持つ、九州一大きな荘園領主となった。その中でも大切にしていたのが、宇佐神宮から30分ほど車を走らせた場所にある、田染荘である。

山のふもとにある神社から湧く水が、土地の高低差を利用して田の一枚一枚に水がうまく流れるよう、複雑な形の田を作った。土の質もよく、おいしい米がとれ、それを宇佐神宮に納めた。田染荘に千

年前からある集落と水田の姿が現在まで形を変えずに継承される。日本でも数少なく貴重な遺産。曲がりくねった田の道沿いには、春は梅や桃が咲き、初夏の御田植祭の頃には美しい緑の水田になり、あぜ道に彼岸花がひそやかに咲く。秋には黄金色の稲穂が首を垂れる。千年前もこの場所で同じ風景を見ていた人たちがいて、今もなお

変わらない営みを守り続けていることを、同じ日本人として誇らしく感じた。

自然と農業の循環と先人の知恵が認められた 国東半島宇佐地域 世界農業遺産

田染荘のある周辺地域には、農業に必要な水を確保するため、先人の知恵によりつくられたため池が数多くある。ため池の周りにはクスギの木を植え、たきぎや炭として使うほか、クスギの腐葉土を利用し、大分県ならではのシイタケの栽培にも活用されるなど、自然の循環により生態系を守ることにもつながり、農業と自然のサイクルを活用した農法は2013年に世界農業遺産に認定された。



田染荘小崎地区は、国の重要文化的景観に選ばれ、さらに2011年には、「日本ユネスコの未来遺産」に登録され、「景観の国宝」となっている。

江戸時代の 情趣が薫る 3つの城下町

名だたる武将たちが天下統一を夢見た戦国の乱世が終わり、天下泰平の時代となった江戸時代。千年ロマンエリアには、個性が光る3つの城下町があった。政治・経済・文化の中心となった城下町は、それぞれの場所ならではの暮らしや営みを感じることができる。



小京都の風情を

着物で歩く

坂道の城下町 杵築

国東半島の南部に位置する杵築の城下町。代々、木付氏が治めていた「木付」という地名の藩だったが、幕府の役人が間違えたことから、「杵築」という字が使われるようになったというエピソードがある。

杵築の城下町は、守江湾が眼下に広がる杵築城を中心に南北の高台に武家屋敷が連なり、その谷間に商人の町が存在するとい

う、他にはない独特なつくりになっている。このような立体的な形状を結ぶのが、大小約20の坂道である。質素な中にも格式と威厳が漂う武家屋敷、町屋の家並み、白壁など、印象に残る景観ばかり。代表的な坂として、酔屋の坂や塩屋の坂があるが、それぞれの坂道にストリーがあるのも、町の人に尋ねてみるのもロマンがあっ

当時の暮らしが垣間見える 大原邸

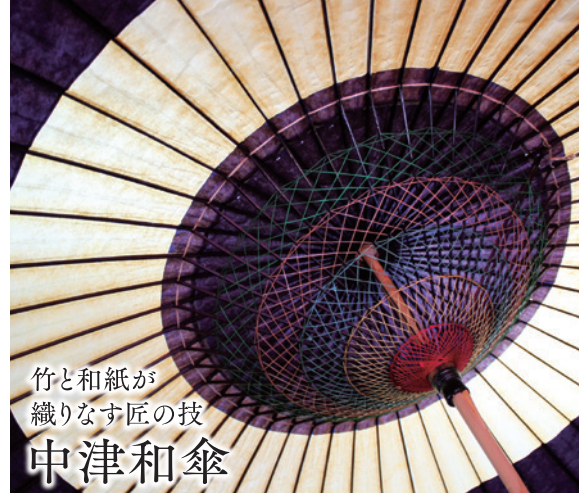


商人の町と武家屋敷をつなぐ 酔屋の坂・塩屋の坂



海を見下ろす絶景が望める 日本一小さな天守閣 杵築城

杵築では、着物姿で城下町を散策すると、公共観光文化施設や食事処などでたくさんの特典が受けられる。300着以上そろえる着物レンタルもあるので、気軽に着物体験が楽しめる。小粋な着物姿でそぞろ歩こう。



竹と和紙が織りなす匠の技
中津和傘

受け継がれる

心と技

河の城下町 中津

名軍師はここからどんな夢を見ていたのだろうか。凛とした姿で中津川の畔に佇む中津城は、豊臣秀吉の命により中津に入封した黒田官兵衛が築いた城。河口に築城したため、水門から海水が入り、堀の水かさが潮の満ち引きにより上下することから、高松城、今治城と並んで日本三大水城の一つに数えられている。また、名工の技によりつく

られた、九州最古を誇る近世城郭の石垣も見どころの一つだ。県境の山国川右岸に位置した中津の城下町は、中津城を中心に、広範囲におよぶ。14の町屋の中でも特に長い距離の街並みが続く「諸町」は、もろもろの職人が多く暮らしたことから由来する。ここでは、当時の藩の財政を支えた和傘や藍染めといった、日本の伝統を今に継ぐ技術が育まれ、人々の暮らしを支えた。しかし、時代の流れとともにあらゆるものが効率化され、利便性を重要視するようになり、風前の灯火となってしまう。そんな中、伝統技術を風化させることなく、中津の宝として受け継がれるべきだと立ち上がった職人がいる。和傘づくりや藍染めは今でも気軽に体験でき、その歴史を体感することができ。この城下町で手づくりの温かみにふれることで、またこの伝統の良さに気づき、思いが引き継がれていくことを切に願う。

近
undiscovered
JAPAN
世



中津城
奥平家歴史資料館

別府湾の 潮風とともに 時が流れる 海の城下町 日出

国東半島の付け根にある小さな城下町、日出町には、かつては別府湾からの日の出を見守るかのよう

に城が立っていた。今は石垣が残るのみ、もうその姿はない。豊臣秀吉の正室、おねの甥である木下延俊が三万石の大名として姫路から日出へ入り、1601年に

日出城初代藩主となった。日出城は、小藩の城とは思えないほどの規模と高い完成度を誇るバランスのとれた美しい城だったと言われている。

日出城址周辺は、海を眺めながら石垣を伝って歩く散策路になっている。春は桜がほころび、青い海とのコントラストが美しく、風光明媚な景色がまぶしく目に映る。

また日出町からは偉人も多く輩出。大分県で唯一現存する藩校「致道館」があり、文教の地だったことがうかがえる。

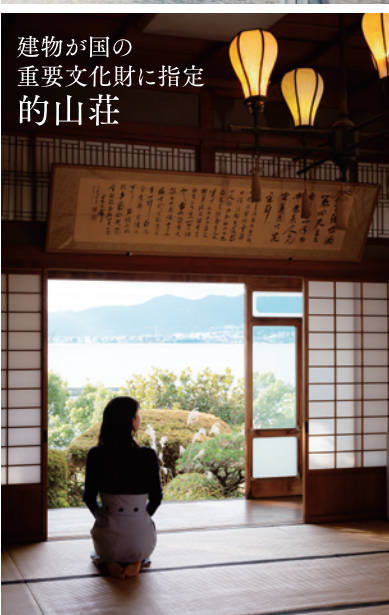
日出城下の海底には江戸時代に徳川將軍家に献上されていた「殿様魚」が育まれている。海水と真水が混じる海域で獲れるマコガレイ

「城下かれい」である。美食家、木下謙次郎の著書でも天下の美味と絶賛されたお墨付き。殿様気分でお墨付きを味わうなら、城下町の中でもひととき目を引く近代和風建築の料亭「的山荘」へ。かつての城主も眺めたであろう別府湾を一望する景色を眺めながら、城下かれいに舌鼓を打てば、この城下町の素晴らしさに改めて魅了されることだろう。

260年続いた武士の時代が終わり、日本はめまぐるしい時代の変化を遂げることになる。別府湾の向こうに見える湯けむりの下にも、新たな文化の幕開けが待っていた。



春は桜に包まれる
日出城址



建物が国の重要文化財に指定
的山荘



undiscovered
JAPAN
代

世界に誇る温泉と、 路地裏の湯の町の暮らし

海の城下町から電車で約15分のタイムトリップ。そこかしこに湯けむりが立ち上り、かすかに硫黄が香る。別府といえば世界一の源泉数と世界第2位の湧出量を誇る日本屈指の温泉王国。明治4年に港が整備され、一大温泉地となった。華やかな別荘文化も一時代を築き、多くの文化人も別府に足を運んだ。今こそ「別府八湯」や「別府地獄めぐり」などで知られているが、日本初のバスガイドの考案など斬新なアイデアとサービス精神で温泉観光に尽力した人物、油屋熊八を抜きにして温泉観光の発展は語れない。別府駅前で熊八の銅像が今でも旅人を出迎える。

駅前通りから一步入ると、窮屈なほどに詰まった路地裏が幾筋にも分かれる。そこには戦火を免れた近代建築のレトロな街並みや、大正時代の共同浴場など、独特な世界が広がる。

古き良き時代に溶け込むように残る共同湯は、いまだ現役。地元の人には風呂桶とタオル片手に自宅のお風呂代わりに毎日通い、当たり前前に近所の人と湯に浸かる。中でも明治12年に誕生した竹瓦温泉は、共同湯の代表格。木造の唐破風造りで、共同浴場と砂湯が楽しめる。地元の人はもちろん、国際色豊かな別府ならではの異文化コミュニティの場となっている。

この景色、このふれあいは、湯の町の日常。その当たり前なことが一番幸せな瞬間だということに、ふと気づかせてくれる。

新しい時代がめぐっても、

ここにはずっとあるのは温かな日常

古き良きあの頃へ おかえりなさい。昭和の町

江戸時代から昭和30年代にかけて、豊後高田の商店街は国東半島一の繁栄を見た。そのころの商店街を再現したのが「昭和の町」である。豊後高田市の中心にある総延長500mの商店街には、昔から変わらないコロケが人気の精肉店、子どもたちでにぎわっていたアイスキャンデーを売る店、老舗のお茶屋などが軒を連ねる。ガイドさんの案内でめぐると、よりリアルな昭和を体感することができるだろう。

昭和30年代には、幸せとぬくもりを感じ、活力と元気が日本中にあふれていた。だから、当時の日々の営みを体感できるこの場所を訪れると、世代を超えて懐かしさを感じることもできるのだろう。

どの店でも、店主とお客さんが笑顔で話しているのが印象的だった。

千年ロマンは、時代の名残をめぐる旅。忘れていた何かを取り戻し、満たされる。時代ごとに感じることで、日本人の心のノスタルジーに出会う、時空の旅。

テーマでめぐる 千年ロマンおすすめコース

3泊4日

神仏習合をめぐる修行の道

〔国東市・宇佐市・豊後高田市・杵築市〕

日本の古代の中心だった宇佐神宮の八幡神が仏と融合していく歴史をめぐる。千年以上も前からある神仏習合の精神性を学び、この地域特有の文化、暮らしなどを体験。

1日目 宿坊体験で精神統一

大分空港出発
タクシーで約50分

文殊仙寺



1 文殊仙寺(国東市)

神仏習合の六郷満山寺院、文殊仙寺に宿泊。寺院の僧侶が六郷満山文化について解説。写経や座禅修行、精進料理の夕食を静かにいただき、心穏やかな旅をスタート。

2日目

身を清め、神が降臨した神域へ

1 文殊仙寺

タクシーで約60分

2 宇佐神宮

タクシーで約30分

3 御許山

タクシーで約30分

4 富貴寺・旅庵路臺

1 文殊仙寺

護摩焚き祈願体験(国東市)

願い事を護摩木に書き、仏に祈願。目の前で燃え上がる護摩焚きの炎は圧巻。六郷満山ならではの体験ができる。

2 宇佐神宮(宇佐市)

境内を散策し、参拜。上宮から下宮へと、折りながら広大な境内を歩く。四季折々の自然美も楽しめる。

3 おもとさん 御許山(宇佐市)

宇佐神宮の元宮である御許山へ。宇佐神宮の神が降臨した神域に一步足を踏み入れると、ぐっと神に近づくような感覚に。



4 ふきのとう 旅庵路臺(豊後高田市)

国宝富貴寺に隣接する、自然に囲まれた趣ある和風旅館。滋味あふれる地元野菜中心の料理や豊後高田特産の手打ちそばが楽しめ、宿にある温泉でこの日の疲れをいやす。

3日目

僧侶たちの足跡をたどるトレッキング

旅庵路臺 朝一に座禅修行

タクシーで約30分

1 峯道ロングトレイル(岩脇寺スタート)

タクシーで約10分

2 やまが 山香温泉 風の郷



1 峯道ロングトレイル(国東半島一帯)

六郷満山寺院の僧侶たちの修行の場、国東半島の峯道を歩く。地元ガイドの案内で、路傍に咲く花や、ひっそりとたたずむ野仏に癒されながら、自然の中で垣間見る六郷満山・神仏習合の姿にふれよう。



2 やまが 山香温泉 風の郷(杵築市)

山間の宿で一日の疲れをほぐそう。空気ふれると褐色に変化する不思議な温泉は、高濃度の塩分が含まれ、とろりとした肌触りで保湿効果も高い。独特な香りが個性的。

4日目

海に見える神社と六郷満山総持院で心穏やかに

山香温泉 風の郷

タクシーで約10分

1 はちまん 八幡奈多宮

タクシーで約30分

2 ふたごじ 両子寺

歩いて約15分

3 ふたごじ 両子河原座

タクシーで約30分

大分空港

1 はちまん 八幡奈多宮(杵築市)

杵築市の奈多海岸にある、宇佐神宮と関係の深いお宮。沖にある市杵(いちき)島の鳥居の遥かかなたに朝日が昇る姿は、一生心に残る感動の景色。八幡奈多宮で参拝後は、地元の人たちが守り続けてきた八幡神が仏の姿になった神像を拝観。



両子寺すぐそばの「両子河原座」でお昼を。名水走水(はしりみず)を使った手打ち蕎麦がおすすめ。

ふたごじ 両子寺(国東市)

両子寺は六郷満山の山岳修行の本道場。奥の院に手を合わせ、裏の岩屋に入ってみると、神々のパワーが宿するような気持ちに。初夏の新緑、秋の紅葉と、どの季節訪れても心地よい散策が楽しめる。



2泊3日
.....

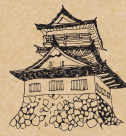
三つの城下町めぐり

「杵築市・別府市・日出町・豊後高田市・中津市」

千年ロマンエリアの3つの風情ある城下町では、武士や商人の当時の暮らしや文化を体験できます。趣あるそれぞれの城下町の歴史を今に伝えるガイドとともに歩きながら楽しめます。また、近代の温泉地・別府にも足をのばせば、味わい深い温泉文化にひたることができます。

1日目 坂の城下町は着物で

- ◆ JR 杵築駅
- ◆ タクシーで約15分
- ◆ 杵築城下町散策
- ◆ 特急で約10分
- ◆ JR 別府駅
- ◆ 歩いて約10分
- ◆ 2 竹瓦温泉



1 杵築城下町散策(杵築市)

杵築市は、全国に先駆け、「きつき和服応援宣言!」を実施。武家屋敷通りを和服で歩くと、市内観光文化施設の入場料が無料になるなどの嬉しいサービスもいっぱい。九州豊後路の小京都をゆったりと歩こう。



2 竹瓦温泉(別府市)

明治時代から約130年続く共同湯。唐破風造(からはぶづくり)の豪華な屋根を持つ温泉。地元の人たちとの湯舟での語らひは、共同温泉の醍醐味。

2日目 潮風香る海の城下町

- ◆ 別府若草港
- ◆ 船で約40分
- ◆ 1 大神漁港
- ◆ 船で約15分
- ◆ 2 日出港・城址散策
- ◆ 歩いて約5分
- ◆ JR 陽谷駅
- ◆ JRと路線バスで約60分
- ◆ 3 昭和の町

1 大神漁港・朝市(日出町)

天然の深い入り江に面した漁港では、早朝から競り人の威勢のいい声が響き渡る。朝市では、仲買人が競り落とした新鮮な魚を選んで買うこともできる。



3 昭和の町(豊後高田市)

昭和30年代のレトロさが懐かしい時代へ。ガイドさんの案内で商店街を歩き、店ごとの歴史を語るレトロな建物や看板が並ぶ姿や、駄菓子屋、なつかしのアイスキャンデーなど、思わず「ただいま」と言ってしまう景色が広がる。



2 日出港・城址散策(日出町)

日出藩初代藩主・木下延俊(のぶとし)により築城された日出城。潮風を感じながら城址周辺を歩くと、江戸時代から残る石垣やかつての姿を復元した櫓などを見ることができる。

3日目 日本の伝統工芸が光る河の城下町

- ◆ 豊後高田
- ◆ タクシーで約40分
- ◆ 1 弓場染物店
- ◆ または和傘工房・朱夏
- ◆ 歩いて約2分
- ◆ 2 美味創匠 朱華
- ◆ 歩いて約2分
- ◆ 3 福澤諭吉旧居・福澤記念館
- ◆ 歩いて約6分
- ◆ 4 中津城下町散策
- ◆ 歩いて約10分
- ◆ 5 丹羽茶舗喫茶室
- ◆ 歩いて約10分
- ◆ JR 中津駅

1 和傘工房・朱夏(中津市)

200年以上前から続く中津和傘。和紙と竹を使って作る和傘やランプシェードなど、色とりどりの作品を見るだけでも楽しく、匠の技を見て取ることができる。



1 弓場染物店(中津市)

花や草木をあしらった伝統ある小紋柄など、数ある和柄からお気に入りの型紙を選び、藍染めの体験が楽しめる。オリジナルの絵柄をつくることもでき、職人さんから日本の伝統的な染物について学ぶ。

2 美味創匠 朱華(中津市)

約100年の古民家を再生したお食事処。和とフレンチの創作料理は、味もさることながら、盛り付けの美しさも楽しめ、目で、舌で堪能できるお料理の数々が味わえる。



3 福澤諭吉旧居・福澤記念館(中津市)

昭和59年から一万円紙幣の表面肖像となり、著書『学問のすゝめ』など、誰もが知る日本人として知られている教育者。中津藩士の子として生まれ、19歳に長崎に行くまでの間過ごした家が保存されている。福沢諭吉の人生を見ることができ資料を展示した記念館も併設。



4 中津城下町散策

合元寺の赤壁



5 丹羽茶舗喫茶室(中津市)

明治26年創業「丹羽茶舗」が営む喫茶室。古い眼料をリノベーションしたレトロな建物で、厳選された日本茶をはじめ、さまざまなお茶を使った和パフェなど、お手製のスイーツが味わえる。

◀宇佐からあげ(宇佐市)

中津からあげ(中津市)からあげ専門店発祥の地である宇佐、からあげの聖地である中津で約80店舗の専門店がある。こだわりの味を食べ比べてみよう。



うれしの(杵築市)▶

杵築城のお殿様が「嬉しいの」と言って食べたことから名付けられた鯛茶漬け。



永く、ずっと愛される 千年ロマングルメ

海と山と、豊かな自然に囲まれた千年ロマンエリアは、高級志向からお手軽に楽しめるものまで、ジャンルに富んだグルメが味わえます。

◀なかつ鱧(中津市)

中津湾で育まれる鱧の中でも、真ハモ(マハモ)は身が桜色で、骨も身もやわらかい。熟練の技で骨切りされた鱧は、カラーゲンたっぷり女性にも人気。



太刀重(国東市)▶

国東の漁場で、春から夏にかけて揚がる極上の太刀魚、くにさき銀たち。甘辛いたれを絡めていただく太刀重は絶品。

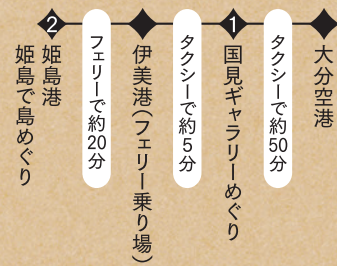


▲城下かれい(日出町)

日出城下の別府湾に湧く真水と海水が混じる水域で育ち、臭みがなく淡白で上品な味わいの逸品。

1泊2日 国見ギャラリーめぐりと 姫島の島暮らし体験「国東市・姫島村」

この土地の素晴らしいさに魅せられたアーティストは数知れず。国東市国見町には県外から移り住み創作活動を行う芸術家が多く暮らし、ギャラリー通りでは個性的で温かみのある作品に出会うことができます。アートの世界を楽しんだ後は、国見の伊美港からフェリーに乗って約20分で姫島に渡り、ゆったりと流れる島時間を満喫してみませんか。



1 国見ギャラリーめぐり(国東市)
明治初期に建てられた木造3階建てを修復した日本家屋で作品を楽しむギャラリーカフェ「涛音寮(とういんりょう)」や、ぬくもりのある陶芸やガラス陶芸品が展示される「ラ・パロマ」など、作家の集う町でさまざまな作品に出会える。



2 姫島で島時間を満喫!

姫島ガイドとむら歩き
姫島に到着して、姫島のガイドの案内で姫島村をゆっくりと散策しよう。



エコドライブ
姫島めぐりにぴったりな、小回りの利くエココンパクトカーをレンタルしてみよう。姫島灯台に続くブルーラインからは、さわやかな海と国東半島を眺められ、その景色は目にも鮮やか。

姫島の郷土食を楽しむ宿泊
おめでたい時に食べる姫島の郷土料理「鯛めん」など、姫島ならではのグルメを味わいながら、一日の島の思い出を語り、一晩ゆっくりと過ごす。

姫島車えびしゃぶしゃぶ
姫島のグルメといえば、国内トップクラスの生産量を誇る、車えび。さっとお湯にくぐらせたしゃぶしゃぶで食べれば、ぷりぷりの食感と甘味に感動するはず。そのほか、フライや塩焼きも絶品。



姫島七不思議めぐり
伝説の島と言われる姫島には、お姫様にまつわる数多くの伝説が残る。



拍子水温泉
七不思議の一つである「拍子水」が源泉。鉄分と炭酸を含んだ褐色の湯が疲れをほぐしてくれる。晴天の日には窓から四国も見渡せる。

日帰り

千年ロマンの楽しみ方はバラエティ豊か。日帰りプランも組み合わせ次第でたくさんの体験が楽しめます。

別府 二湯めぐりと地獄蒸し体験

異なる泉質を組み合わせることで相乗効果を期待する機能浴温泉。世界にある泉質の多くが別府にあるからこそ、別府ならではの浸り方が味わえる。



一湯目
みょうぼん
明礬温泉
クレンジング効果の高い明礬温泉の硫黄泉で古くなった皮膚の角質を取り除く。



二湯目
かんなわ
鉄輪温泉
保湿効果の高いメタケイ酸をたっぷり含んだ鉄輪温泉の湯。お肌はしっとり、美肌効果に期待。



グルメ
地獄蒸し
地獄窯を使って、高温の温泉蒸気で海鮮や野菜などを蒸しあげる地獄蒸しは、鉄輪の伝統的な調理法。素材の旨み・甘みを引き出し、感動のおいしさ。

中津・耶馬渓を満喫 サイクリング&トレッキング

天下の景勝地、耶馬渓を自転車でめぐる「メイプル耶馬サイクリングロード」と、沿線観光地をトレッキングするアクティブプラン。



▲メイプル耶馬サイクリングロード
山間の耶馬渓鉄道配線跡を利用し、子どもから大人まで気ままにサイクリングが楽しめる。春は桜並木、初夏は新緑、秋は紅葉と最高のロケーション。サイクリングターミナルでのレンタサイクルが可能。

どうもん きょうしゅうほう
青の洞門・競秀峰
古くから交通の難所だった競秀峰を江戸時代の修行僧 禅海が30年かけて手掘りで掘ったトンネル。頭上に見える断崖絶壁の競秀峰には探勝道もあり、大自然と奇岩の迫力ある景色が望める。



らんじ
羅漢寺
1300年以上の歴史を誇る古刹。山の中腹に開かれた寺や岩窟内の五百羅漢をはじめとする石仏群は圧巻。山頂まではリフトであがったり、探勝道や修験道を歩いたり、道のりも楽しみの一つ。



日本遺産認定 やばけい遊覧～大地に描いた山水絵巻の道をゆく～
中津市・玖珠町にまたがる広大な景勝地・耶馬渓(やばけい)の歴史や文化を語るストーリー「やばけい遊覧～大地に描いた山水絵巻の道をゆく」が、日本遺産に認定。多くの文人画人も魅了した奇岩の渓谷美が織りなす山水絵巻の世界が認められた。

中津・宇佐・日出 戦争遺跡めぐり

戦争遺跡が数多く残る中津・宇佐・日出。特別攻撃隊の歴史などから命の尊さと平和の大切さを学ぶ。



はちめんざん
八面山平和公園(中津市)
米軍戦闘機が落ちた八面山の山腹にあり、太平洋戦争を教訓に、日米両国の友好と世界平和を祈る。この山は軽登山の名所としても人気がある。

えんたいごう
城井一号掩体壕(宇佐市)
旧宇佐海軍航空隊関係の戦争遺跡で、掩体壕は軍用機を敵の攻撃から守る施設。宇佐には掩体壕が11機残っている。



かいてんおおが
回天大神訓練基地 記念公園(日出町)
1945年に大沖港につくられた、人間魚雷「回天」の訓練基地。記念公園には当時の回天のレプリカが展示されている。